

## 【都筑区】令和 7 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 9 月 5 日（金）09：56～11:36
場 所	5 階特別会議室
出席者	<p>【座 長】磯部尚哉 議員</p> <p>【議 員：4 名】長谷川琢磨 議員、市来栄美子 議員、白井亮次 議員、 深作祐衣 議員</p> <p>【都筑区：31 名】佐々田賢一 区長、宮嶋真理子 副区長、日比野徹 災害 対策担当部長（都筑消防署長）、中山昭 福祉保健センター長、澤田賢一 福祉保健センター担当部長、藤井由貴 福祉保健センター医務担当部長、 故島 哲朗 都筑土木事務所長ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 6 年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について</p> <p>2 令和 7 年度 都筑区自主企画事業の執行状況について</p> <p>3 令和 8 年度 都筑区個性ある区づくり推進費 予算編成の考え方について（案）</p> <p>4 報告案件 令和 7 年度の GREEN×EXPO 2027 の機運醸成の取組について</p>
発言の 要 旨	<p>1 令和 6 年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について</p> <p>2 令和 7 年度 都筑区自主企画事業の執行状況について</p> <p><b>【まちづくり総合調整事業】</b></p> <p>白井議員：まちづくりプランの進捗とこれからの流れは。</p> <p>橋本区政推進課長：都市計画マスタープランの進捗としては全体構想が令和 7 年 5 月に改定され、都市整備局が 18 区統一の地域別方針の策定の検討を進めている。この全体構想及び地域別方針を踏まえて都筑区プランを改定するため、スケジュールは局と調整をしている状況。全体構想と同様に 2040 年を目標としており、前回の策定では 3～4 年かけて作ったと聞いている。</p> <p>なお、プラン改定に向けて現在の都筑区の社会経済状況の調査を開始している。</p> <p>白井議員：都筑区らしさが重要で、高齢化が進んでいるので福祉のまちづくりが今後必要になる。一方で予算も限られている中でグリ</p>

ーンインフラの維持もしていく難しさがある。都筑区で住み続けていただくために綺麗な状況を維持することが大事だと考えているが、行政側の所感を伺いたい。

橋本区政推進課長：都筑区のまちの景観全体に関しては、港北ニュータウンの開発以来、都市機能と緑環境が調和しているということで今の都筑区がある。現在のマスタープランの中でも様々な記載があるが、そこから約10年経っているため、現在の社会経済状況や土地の利活用の状況も調べたうえで、地域の皆様のご意見を伺って進めていきたいと考えている。環境の維持については各地域やエリアによって状況が違うため、その状況を勘案して検討したい。

白井議員：意見集約をどのように行っていくのが大事だと考える。まちをどうしていくのかみんなで考えていくというムーブメントを起こしてもらいたい。

#### **【災害にそなえる自助・共助の推進事業】**

白井議員：マンション防災の管理組合を通じたネットワークはあるのか。

江口総務課長：把握している限りでは組織的に横断的なものはない。

白井議員：マンションの防災担当の横のネットワークを把握しておくべきである。マンションやトイレについてどう考えているのかの意見集約をしてほしい。

タンクがないマンションも多いので、停電するとトイレが使えないところが多い。設備が脆弱なところもあるので、ぜひ確認をしていただきたい。

#### **【みんなで花と緑のまちづくり事業】**

白井議員：公園愛護会が高齢化している。愛護会の平均年齢や人数等、愛護会の状況をどの程度土木事務所で把握しているのか。

矢口土木事務所副所長：高齢化という状況は把握しているが、具体的な平均年齢までは把握していない。人数はある程度把握している。

白井議員：実状を知るためのアンケートは実施しているか。

矢口土木事務所副所長：実施していない。

白井議員：どこもかなり厳しい状況にある。アンケートを取って、どこ

にどういう支援が必要ということを把握しないと軒並み続いていかなくなってしまう。一律ではなくプッシュ型の支援をしていかなければ意味がない。土木事務所で状況を把握することが必要だと考えるので、意見として申し上げる。

### 【令和6年度決算状況】

深作議員：令和6年度決算の執行率は。

江口総務課長：自主企画事業費は98.3%、直近3か年が95%程度であり、比較しても高い執行率となっている。

深作議員：ほぼ100%に近い執行率ということで予定通り執行出来ているのかと思うが、区づくり予算は区として充実していると考えているか。もっと予算があった方が良いのか、区づくり予算に対する区の評価を伺いたい。また、予算全体の編成を考える上での現状の課題があれば伺いたい。

江口総務課長：経常経費的なものは区庁舎管理費等で賄っており、高騰している光熱費や人件費は補正予算で対応している。自主企画事業費は概ね1億円程度となっているため、より規模の大きい事業をやろうとすると足りないところもある。

深作議員：住んでいる区の特性があるため、私も常々特性に応じて幅が広がる予算規模だと良いと思っており、そこは議会の中でも議論が進んでいくと良いと感じている。光熱水費や物価高騰、施設の老朽化の対応をする中で、どれだけ区民ニーズに合う自主企画事業を展開できているのか気になっていたので知れて良かった。

### 【妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業】

深作議員：近隣の区から都筑区は赤ちゃん会が第2子以降まで対象を拡大されて羨ましいという声を聴いているが、赤ちゃん会は本来は市部局で担うべき事業だと考える。区から市にどれくらい要望を上げられるのか。

上田こども家庭支援課長：都筑区では第2子以降にも対象を拡大した結果、3割程度の方が第2子以降で参加いただいております、評価をいただいている。赤ちゃん会は、18区共通の区づくり事業として実施しているので、市全体として捉えられるニーズは局にも

伝えていければと考えている。地域性によってまちまちかもしれないが、第2子以降の参加についてはニーズが高いかと思う。

深作議員：ニーズをくみ取って都筑区で実績を作っているということを市全体の議論にも押し上げていきたい。市全体として「子育てしたいまち」をうたっているので、市として予算を出すということを提案していきつつ、この事業にかかわらず、本来は市でやるべき事業を区づくりで実施しているのであれば、市にニーズをあげてほしい。

### 【自治会町内会の地域運営応援事業】

深作議員：自治会の加入率と18区の位置付けを教えてください。

須藤地域振興課長：自治会加入率は55.7%で18区の中では最下位。

深作議員：ちょうど夏祭りもあって自治体の努力を地域の方が実感したタイミングだと思う。何かあった時の共助という意味でもしっかりした啓発を新たな視点を入れてやっていかなければならないと考える。お祭りを回っていると高齢化や暑さもあってかなりきつい状況という声を聴いているが、区長も回っている中で何か意見・要望等は聴いているか。

佐々田区長：回っていても担われている方々の高齢化で、大変という声は聞いている。加入を促進するということは区連会と連携して取り組んでいる。同時に区民活動センター等で活動している外部の方々のエネルギーを取り込みたいと考えている。それが都筑スタイルという事業の趣旨だが、関係人口という言葉もあるが、住んでいる人たちだけでなく、色々な人たちでまちを支えていくということも考えていきたい。

深作議員：55.7%というと加入率が低い印象なので、抜本的な対策が必要と考える。都筑スタイルは良い事業だと思っているので、引き続き若い人や子連れが多い難しさもありつつも、例えばDXで自治会費をクレジットにするなど、出来ることを高めていかなければと考える。

佐々田区長：DX化については、都筑スタイル事業でアドバイザーの派遣を実施し、自治会町内会に実践的なアドバイスをしている。また、転入者が多く、自治会町内会の存在を知らない方も多いので、

アドバイザーの助言により、誰もが気軽に参加できるようなカフェの開催等をしている自治会町内会もある。また、日中、仕事などで時間がとれない方も参加しやすいオンラインによる研修や、資料を紙から IT にするなど、負担を軽減しながらこれからも進めていきたい。

### **【都筑区地域福祉保健計画 「つづき あい」 推進事業】**

長谷川議員：地域福祉保健計画について、もうじき策定の大詰めかと思うが、各地区が作っている大きな柱が計画倒れしてしまうのではないかと思う。今期は計画策定の段階で行政が会議に入って促すようお願いをしていたが、現在の状況は。

清福祉保健課長：各地域で地区別計画を作っており、締切はこれから先であるが、随時会議に参加して進捗を確認している。新たに自治会に入られた方も多くいらっしゃるので、地域福祉保健計画を知らない人が多いということも事実としてあり、計画の周知を改めて進めている。

また、計画を立てて終わりではなく、地区別支援チームも随時入って困っていることがないか等引き続き伴走支援をしていきたい。

長谷川議員：たたき台は既に出来上がっていて、地域の方向性は見えている。それを地域の人たちが理解しているかどうか。理解していないと計画倒れになってしまう。そこを理解いただいたうえで可決してもらうという、最後の段階にあるので、地域で納得して行動してもらう段取りを整えてもらいたい。

### **【妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業】**

市来議員：ボッシュ本社の移転の影響か、外国人が増えたと感じる。外国出身者向けの新規事業を立ち上げた経緯を教えてほしい。また、外国人へのヒアリングで把握したニーズを教えてほしい。

上田こども家庭支援課長：子育て世帯の転入者の中には外国籍の方が一定程度おり、特にボッシュの本社移転で体感的に来庁される外国人が増えているように感じる。こども家庭支援課の窓口で転入者向けに子育て情報誌をお渡ししているが、日本語版しかなく、外国人への情報提供に課題があると現場の職員の声も受け

た。外国人からも文化が異なる中での子育てについて知るツールが欲しいという声を聴いている。こうしたところから外国語版の子育て情報誌の作成検討に至った。

現時点で把握しているニーズとしては、幼稚園・保育園の入所の時期や一時預かりを含めたお子さんを預ける制度を知りたいという意見や、防災、医療等について知りたいといった声を聴いている。今後はより実効的な子育て情報誌を作成するために子育て中の外国人を集めて意見交換会を実施し、より精度の高いニーズ把握を行いたいと考えている。

### 【地域で支える認知症支援事業】

市来議員：認知症の体験会に私も参加させていただいた。ケアをする家族にとって良い体験だと思った。参加人数とアンケートなどを取っていれば教えてほしい。

森兼高齢・障害支援課長：当日は区民ホールの1階にいらっしゃる方に声をかけて125人が参加した。アンケートではなく、その場で意見をシールで張ってもらった。「体験を通じて認知症の方の行動や気持ちについて、以前より理解が出来たか」という項目では98%から「非常にそう思う、ややそう思う」と回答いただいた。

また、「今後認知症の方と接する機会があったら以前より関われるか」という項目では100%の方から「そう思う」と回答をいただいた。階段やバスの乗り降りで困っている状況をVRで体験してもらうことで積極的にかかわっていきたいと思っていただけたのか、良いきっかけになった。来年度以降も対象者等検討して引き続き実施できればと思う。

市来議員：私も以前ボッシュホールで認知症のセミナーを開かせていただいたが、ケアをしていく人たちに対する施策がこれまであまりなかったのが好評だった。是非来年もお願いしたい。

### 【安全・安心なまちづくり事業】

市来議員：前回の区づくり会議で話した交通死亡事故について、平台の場所の対応をいただいてありがたい。スピード違反の削減につながればと心から思っている。一方で仲町台の駅前を調査し

たところ、新横浜江田線が片道3車線で広がっているが、ベビーカーで横断歩道のないところを渡る人や、スマホを見ながら渡る人、オートバイのUターンを発見した。

7月に戸塚区でも自転車とオートバイの死亡事故があったので、仲町台でも何等かの対策をしてほしい。

矢口土木事務所副所長：ご指摘の場所は信号交差点が設置できるような形状になっているが、実際は信号交差点がなく、中央分離帯をガードレールでふさいでいるので、その合間を縫って無理やり横断をしてしまっている状況かと思う。中央分離帯にガードレールがあることで、危なくないと考えて横断してしまっているのかもしれない。警察に交差点として機能させる予定があるのかを確認したうえで、なければ抜本的に横断防止策を考えていく。ただ、予算の都合で時間がかかるかもしれないので、もし時間がかかるようであれば注意喚起の看板も一つ検討したい。

深作議員：鋼管ポールの防犯灯について全数点検を始めたかと思うが、都筑区はどれくらいの数があるのか。また、都筑区は緑が多いが暗がりも多いというところで、全数点検で防犯灯が撤去された場合にはどうするのか。

須藤地域振興課長：鋼管ポールが腐食しているため緊急点検をしており、都筑区では1、2月に729本を対象に点検を実施する。既に実施済みの区では、即撤去というのが全体の1～3%だと聞いている。鋼管ポールが撤去された後の明かりは必要だと考えているので、所管局に働きかけていく。

### 【スムーズ区役所事業】

磯部議員：18区役所初の災害備蓄食を備えた自動販売機を設置して反響があったと聞いているが、どんなものがあったのか、またその概要を。

江口総務課長：昨年この時期に土砂災害警戒情報や南海トラフ等、区役所自体を避難場所にすることを検討している中で、足りないものが色々と見えてきた。避難にあたっては食料は持参となっているが、何とか出来ないかと考え、元々災害用ベンダーの設置に向けて調整を行ってきた中で、自動販売機のリサイクルボックスを活用し、行政が経費を負担しない形で災害用備蓄食を提

供いただけることとなった。記者発表したところ複数のメディアから取り上げていただいた。

磯部議員：反響を受け、今後区内で展開していく予定はあるのか。

江口総務課長：交渉の仕方にもよるが、企業からすると無償提供となっているので、出来るケース出来ないケースがあるかと思う。こういう取組はあった方が良いので機会を見て話しをしていきたい。

磯部議員：面白い取組だと思うので、ぜひ展開していただきたい。

佐々田区長：今回の事例のように、民間事業者と組んで、お互いのメリットを生み出しながら、区民に喜ばれる事業を継続できる形で実施していく、公民連携の取組も進めていきたい。まだまだ工夫する余地はあると思っている。

### 3 令和8年度 都筑区個性ある区づくり推進費 予算編成の考え方について（案）

白井議員：指定管理制度のガイドラインが改正されると聞いた。これまで目的内だけだったのが目的外の事業も実施できるようになる。おそらく将来的な財政不足を見込んで、指定管理の費用を支えきれないので各施設で稼いでほしいというメッセージだととらえている。ただ、指定管理側も何をしたら良いのかというところを考えるのは難しいと思う。そういう相談の窓口はあるのか。

江口総務課長：基本的には指定管理施設の所管課が窓口になると思うが、制度の詳細については政策経営局になると思う。

白井議員：そうなると（局では）都筑のことを知らないと思う。専門的に受け付ける窓口を区役所に作った方が良い。より良い事業が生まれることで区づくり推進費を削減していける可能性もある。相談する場所を本庁だけでなく区役所にも設けないとより良いものは生まれない。どう考えるか。

江口総務課長：我々も新しい運用について細かいところまで把握できていないが、指定管理を所管している課が相談を受けるような立ち位置かと思うので、いただいたご意見は局に伝える。

長谷川議員：施策の柱の「エ 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち」



について、GREEN×EXPO 2027 に関連してゴミの削減というところで以前局と話をしたが、全体の話になってしまって中々進めることが出来なかった。

そこで GREEN×EXPO 2027 の大きな目標として都筑区なりに何が出来るのかを考えてほしい。ゴミの削減等やれる地域もあればやれない地域もあるが、ゴミの焼却場もあり、一軒家の多い郊外の都筑区だからこそ出来ることがあると思う。

鈴木資源循環局都筑事務所長：ゴミの削減は色々と進めており、特にプラスチックを進めている。全体的に年々収集する量は減ってきている。土壌混合法等を改めて進めることで燃やすゴミを減らす等、独自ではないが市全体で進める中で都筑事務所としてもやっていきたいと思う。

長谷川議員：地域性というところで頑張っていたきたい。

#### 4 報告案件

令和7年度の GREEN×EXPO 2027 の機運醸成の取組について

白井議員：都筑は既にグリーン社会をほぼほぼ実現できていると思っており、あとは緑をどう維持していくかだと考えている。緑道や江田周辺は草木がうっそうとしており、ある場所だと1年間に3件の都筑区以外の自殺があった。学校に通うときに怖いという声も聴いている。緑の維持は難しくお金もかかるので民間とのタイアップが必要だと考える。

緑を見つめなおすきっかけが都筑区の GREEN×EXPO 2027 の考え方の一つだと思っている。地域団体と協力して都筑全体の何かしらのムーブメントにつながるような見つめなおしをやっていただきたいと強く思っている。

ラッピングはもう十分であり、GREEN×EXPO 2027 は何なのかというところが重要なので、都筑区らしさをより踏み込んだ形でやらないといけない。いろいろなイベントに対応して役所も理解を深めてもらえたら。

橋本区政推進課長：まさに GREEN×EXPO 2027 の理念は既に都筑区で取り組んでいるところ。区としても地域団体とのプロモーションを実施してきている。一方で横浜市の認知度調査では GREEN×

	<p>EXPO 2027 を「知っている」と回答した割合が 62%となっていることから認知度向上も課題と考えており、併せて理念についても伝えていけるよう工夫をしていきたい。</p> <p>深作議員：区民まつりでトゥンクトウンクの着ぐるみのようなものを使えないか。子どもはマスコットが好きなので着ぐるみのようなものを使うことで、触れ合いを通して子どもだけでなくその親も巻き込んでいけるのではないか。</p> <p>橋本区政推進課長：子どもに着ぐるみのようなものが人気があるということは認識しているが、局でも何かしら検討をしているようだがまだ横浜市として使えるコンテンツとしてはない。一方でトゥンクトウンクのバルーンは既にあって、動きはしないが、イベントの際には貸し出して PR を行っている。バルーンを置いておくと子どもが来るというところで興味関心を引くコンテンツかと思うので、ご提案のあった着ぐるみのようなものも局に伝えていく。</p> <p>佐々田区長：大阪万博のミャクミャクは今では大人気となっている。著作権などの問題もあるが、トゥンクトウンクもその路線に乗っかっていけると良いと思う。少し小さいバルーンがあるが、本庁には大きいものもある。TICAD 関連イベントに登場したトゥンクトウンクなど、出来ることはぜひ局とも調整したい。</p>
備 考	